作品紹介
ーー般建築ー

■ 花パーク・フィオーレ小淵沢

所在地	山梨県北杜市
延床面積	1,253㎡
構造/規模	木造/地上2階
竣工	2000年3月

花パーク・フィオーレ小淵沢は、都市住民等の来訪者に「安らぎ」と「癒し」の場を提供することを目的とした「花と緑のうるおい空間整備事業」の一環として造られました。

園内は、昔からの八ヶ岳の棚田に茂る山野草を残した第1のゾーン、一方で徹底した管理のもとで草花を味わってもらう第2のゾーン、両者の中間の位置づけである第3のゾーンで構成されています。多年草を植栽し整備した棚田は、コリドールと名付けた導線的な軸を中心に、様々な表情を作り出しています。

コリドールの中心に位置するセンター広場には、広い園内のランドマークとなる木造の施設群が建っている。

■ 黒井健絵本ハウス

所在地	山梨県北杜市
延床面積	301㎡
構造/規模	木造/地上2階
竣工	2003年5月

山梨県建築文化奨励賞を受賞した黒井健絵本ハウス。「ごんぎつね」「ころわんシリーズ」等で有名な絵本作家・黒井健さんの私設ミュージアムです。

清里は、その豊かな自然を愛し、移り住む人の多い土地なので、景観を壊すことのない計画が求められました。ここでは大きな一つのかたまりではなく、小さな二つのボリュームに分節し、周辺環境との調和を図っています。

仕上材は外部・内部とも木・ケイソウ土等の自然素材。また建物のいたる所に、ステンドガラス作家・菊池氏によるステンドガラス、鍛造作家・松岡氏の鋳鉄製の階段の手摺や風車など、多様なアートを組み込んでいます。

アプローチでは松岡氏制作の看板がお出迎え。週末は親子連れで賑わう。

■ まつぶし幼稚園・こどもの森保育園

この度、当社の設計により2001年に完成した幼保一体化施設『こどものもり』（まつぶし幼稚園・こどもの森保育園）が、こども環境学会主催による**第2回こども環境学会賞の「こども環境デザイン賞」**、ならびにＮＰＯ木の建築フォラム主催による**第3回木の建築賞の「建築大賞」**の両賞を受賞いたしました。

詳しくは同封の別紙をご覧ください。

アトリエの今

工事現場から

■ **真言宗　豊山派　松花山　宝珠院　客殿新築工事：**現在屋根材が葺き終わり、随時内部造作工事が始まっています。

■ **上越の家：**新潟県上越のモデルハウス。現在、仕上げ段階に入っています。

■ **駒込K邸：**駒込駅南口近くに建設中の、RC壁構造、地下1階・地上3階建ての個人住宅。オーナー愛好の絵画所蔵スペースも計画しています。

宝珠院　客殿工事：屋根工事中

設計室から

■ **高崎　蔵のギャラリー：**高崎市新町、中山道に面した蔵3棟の補修・改修を行いギャラリーとする計画。やっと方向性が見えてきました。

■ **Kクリニック計画：**錦糸町の駅近くに新たなクリニックを計画中。これまでも、この町を拠点に様々な計画を展開しているオーナーです。

■ **磐田市歯科医院新築計画：**壁式RC造二階建ての医院。6月初旬に図面の追い込みがあり、現在見積り中。年内の竣工を目指しています。

■ **鎌倉店舗併用住宅新築計画：**鎌倉の地元に根ざした店舗の建て替え計画。現在実施図を作成中。木造三階建てで来春竣工予定です。

磐田市歯科医院模型

■ **浜松共同住宅：**浜松に木造の共同住宅を計画しています。浜松の町にマッチするよう計画中。

■ **高井戸二所帯住宅新築計画：**姉と妹の娘世帯による組み合わせの二所帯住宅。最終形が決まり、いよいよ実施設計追い込みです。

遊・学・イベント

アトリエでは森林探訪をはじめ、様々なイベントを企画しています。

スタッフとともに自然を、文化を、見つめ直してみませんか？

＜今後のイベント＞

- 7月下旬　八丈島旅行
- 8月11, 12日　川の全国シンポ（徳島大学 大塚講堂）
  川を流域住民が取りもどすためのシンポジウム（参加）
- 9月　里山歩き（奥多摩）
- 10月　里山歩き（秩父）
- 11月　紅葉狩り+バーベキュー

※興味のある方は 担当:西村 までお問い合わせ下さい。

＜終了イベント＞

・6月16日に尾瀬へ行ってきました。前日夜行バスに乗り込み、快晴の中、朝早くから昼過ぎまで充実したトレッキングでした。

・6月9日に入之内が世話人を務める水脈の会主催の水脈トークにて、彫刻家・面打師 大塚亮治氏による講演が行われ、大盛況となりました。

・5月15日　菊池健一さんを偲ぶ会
・5月4日　鬼怒川カヌー下り

花の時期を外れた為、人が少なく歩きやすい尾瀬でした。

講演当日は会場に面が並び、手にとって見る事ができました。

知の広場

住まい考　～住まいとお里～

仲間同士の会話でよく「お前のお里がわかるよ」等と、まるでその人の全人格を了解しているかのような会話がでることがあります。その「お里」とは、その人の生まれた故郷のことですが、突き詰めると住宅が建てられているその場所でもあるのです。

住宅が商品として売買され、立地選びも経済コストを優先して考えがちな今日では、その「お里」の意識が宅地選び同様希薄化しています。しかしその場所で新たに生まれた子供には、その「お里」は一生つきまとうものなのです。

住まいは単に建築主だけのものではありません。その家族や、血縁、過去、未来にも繋がるものとしてあるものです。従って住まいの建築される場、「お里選び」は、家族にまつわる多様な側面から判断すべきではないでしょうか。

造る人～ステンド作家菊池健一の住まいと死～

ヒト

私入之内の無二の友人であるステンド作家の菊池健一が亡くなって今年で2年が経ちます。かれは芸大で洋画を学び画家として将来を有望視されていたのですが、突然筆を捨て、ステンドグラスを学ぶためにフランスに渡ります。4年後日本に戻り、生涯ステンド作家として活動を続けたのでした。彼の代表的作品は、絵付けのステンドグラスに鉄、木材や大谷石を組み込んだ彼独自の様式で、日本的作品となっています。

モノ

そんな彼の住まい観は常に定住を拒否したかのように、数年ごとに居場所を変えては仲間を困らせておりました。つまり、人目には「お里」がない生活なのです。

場所

その彼が50歳になった時、真顔で私に言いました。「俺にも家が持てるかな」……その家を私に設計しろと言うのです。放浪の彼が選んだ「お里」は、東京から100キロも離れた栃木県の黒川沿いの土地でした。（実はその遥か上流には彼の故郷があったのです）

つまり栃木は、その頃彼が惚れ込んで使用していたステンド製作の素材、大谷石の故郷でもあったのです。大谷石の特性を知るために、その産地の自然環境を日々肌で感じたい――――その思いが彼を自宅の建築へと導いたのです。

ステンド作家の家　中庭

設計から完成まで3年の月日を経てようやく完成したのが、大谷石の中庭とステンドグラスのある家、「壬生の家」です。彼はこの家で、57歳という若さで亡くなるまで、生涯素晴らしいガラスと石の作品を造り続けました。大谷石が彼に「お里」をもたらしたのです。

ステンド作家の家　インテリア

彼の「お里」、彼の住まいには、彼が亡くなった今でも多くの人々が訪れます。

フルサトハ　アリガタキカナ……。　　-合掌-　（入之内）

ワザ

まつぶし幼稚園・こどもの森保育園は、幼稚園棟の台形の寄せ棟屋根、ランチルーム棟の16角形円錐屋根、保育園棟の切り妻屋根の3つの構造に分かれていて、それぞれがつながり一つの形態をつくっています。木組みは平面的、立体的にも全ての材の角度が異なり、さらに丸太の柱から伸びた丸太の方杖が屋根を支える梁を受けています。大工さんの手加工でないと難しい複雑な木組も、全てコンピューターと機械によりプレカットした構造材で組んでいます。

木組の工事を担当した松村氏は、3次元に対応した3次元プレカットの機械の力を発揮する機会がなかなかなかったそうで、この建物の図面を見て、まるでラブレターを受け取ったかのような感覚になったとの事でした。このような建物を建てる為にこの機械があるのです。この建物は、そうした人々との出会いと熱意から築かれました。

幼稚園棟内部。1本の丸柱から5本の方杖がそれぞれ異なる角度、異なる長さで伸びている。

社会

2007年6月20日　建築基準法改正

構造計算偽装事件を受け、先月20日に建築基準法が改正されました。

□□□